

京都西山・大枝のアサギマダラ 2022・③

南下期のアサギマダラ第一号が飛来
2022.09.10・10時55分



①山口県の本州の山中から採取されたというフジバカマ
(2021年は小柄で開花の時期も10月中旬以降でしたが、2022年は、9月10日から咲き始め、背丈は高くなり(180cm)姿かたちも園芸種のコバノフジバカマと見分けがつかなくなりました。)

① 米寿のお祝いにやって来た南下の第一号

(2022.09.10の誕生日:アサギマダラはじつとこちらを見つめ、触角の垂れ具合から軽くお辞儀をしているのが分かるでしょう。「米寿おめでとうございます」と言っているかのようでした。)

② 颱風14号とアサギマダラの南下

警報で真赤になっていた日本列島は、懸念されたほどの被害もなく、急に秋の気配が濃くなってきました。移動性となった高気圧が三つも日本海にあるので、急に気温が下がりましたが、これは一時的なもので、再び高温の日が戻って来る長期予報です。気象庁のHPで『海面水温』を見ると、平年差が3~4度も高い水域が東北・北海道・千島列島沖の太平洋に広がっています。比熱容量が高い海水は、一度オーバーヒートすると、なかなか冷めないのです。

参考{比熱容量:海水=3.93 砂やコンクリート=~0.8}

③ フジバカマの開花が早くなりました。

去年はまず(1)京都原種フジバカマが9月中旬から咲き始めて(2)園芸種コバノフジバカマ(京都・綾部・京北上黒田の栽培種)が9月下旬から10月中旬まで繋ぎ、(3)10月中旬から下旬にかけては山口県(本州)の山中に自生していたというフジバカマ?が繋ぎ、(4)11月は山口県のヤマヒヨドリバナが開花しました。

今年(2022)は、9月5日ごろから、前記(3)のフジバカマ?が一番に開花し、(1)京都原種フジバカマは9月20日には満開状態、(2)園芸種コバノフジバカマ(京都・綾部・京北上黒田の栽培種)が続いて開花が始まっています。(9/24現在) (4)のヤマヒヨドリバナの蕾も膨らみ始めており、開花は早まりそうな気配です。



(2-1)山口県(本州)の山中から採取されたという(3)のフジバカマ?は、小型で花期も非常に遅いという特性を失って、背丈は一番高くなり、花期も一番に躍り出ました。姿形は園芸種のコバノフジバカマとそっくりで、自生では無い可能性が出て来ました。



(2-2)京都原種のフジバカマは、



③ 山口県原種・フジバカマ (小柄で花期も遅い)



④ 園芸種・コバノフジバカマ (花期が遅く、繁殖力旺盛)



⑤ 山口県自生種・ヤマヒヨドリ (花期は一番遅い)

1.アサギマダラはどうやってフジバカマ花壇を見つけたか。

当日は上の②の写真のように晴天で風も穏やかな日和でしたが、吹き流しは斜面上昇風が吹いているのを示しています。正面が東で、上空は北風が吹いて飛行機雲を靡かせているのが分かるでしょう。飛来したアサギマダラは、フジバカマ花壇の香りに誘引されて来たものと思われませんが、晴天の日にはまず地面(比熱が小さい)が太陽光で温められ、地面に接している空気の温度が上がります。空気は温められると軽くなり、上昇しようとしませんが、京都西山の稜線に至るまでのすべての斜面の空気全体が同じように上昇しようとするので、結果的にはまるで絨毯のように日向の地表の空気が、稜線に向かって斜面全体が山腹を這い上って(斜面上昇風と呼ぶ)フジバカマ花壇の香りを、森の中の生活適温帯を飛翔するアサギマダラに届けるのです。アサギマダラは、分散しないで斜面上昇風の中の紐みみたいに連なる香りを辿ってフジバカマ花壇にたどり着くわけですが、平地の花壇ではこんなことは起こりません。この『風とアサギマダラの生活・検証実験施設』は、目には見えない風を感じ、実際にアサギマダラが多数飛来するのを観察するために造られました。

2.京都西山のフシバカマ花壇の概要

アサギマダラの初飛来が有ったので、シーズンインしてしまったのですが、新しい仲間や後援者の皆さんに、今年の施設の概要をお知らせしなければなりません。フジバカマ花壇の栽培面積は、およそ2倍になりました。フジバカマの増殖に比例してアサギマダラの飛来も増えるでしょうか。興味が尽きないところです。

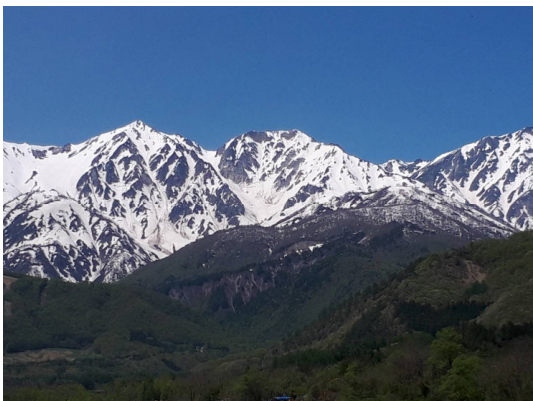
2021年の南下飛来は9月14日に始まり、11月4日まで続きました。標識数は670頭でしたが、およそ1000頭前後飛来したものと思われます。今年は新人の板井幸子さんも参加してくれるので、1000頭～1500頭を期待しています。フジバカマは今のところ順調に育っていますが、心配なことが一つあります。病気と害虫です。京都原種にはツマグロオオヨコバイが大発生しており、バッタの幼虫も葉を齧るのです。園芸種にはアブラムシとダニが寄生しており、芯を止めています。これらの害敵は、フジバカマの権威・藤井先生のご指導により農薬を使って駆除しています。



⑥ アブラムシに芯を止められたコバノフジバカマ



⑦ アブラムシの天敵・テントウムシ類



⑧ ⑨ 北上期のアサギマダラを呼んだ長野県小谷村のボランティアが使うという手袋と、2022.5.7 に撮られた白馬三山の写真。